

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通/2階、3階)

事業所番号	2791600162		
法人名	大都美装株式会社		
事業所名	グループホーム明日葉		
所在地	吹田市南吹田2丁目3番16号		
自己評価作成日	令和3年5月14日	評価結果市町村受理日	令和3年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和3年9月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>食事に力を入れており、食材は地元スーパー等に調理スタッフが直接購入しに行っている。施設を常に清潔に保ち、業者による清掃を月1回実施、日々の清掃は職員が毎日実施し感染予防に配慮している。 入居者様の個別に応じた脳トレや歩行運動を行いADLの低下への対応をし、毎月季節感を感じて頂くイベントを開催しQOLの向上を図っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホーム明日葉(事業所)は、大都美装株式会社(本社)の介護支援事業部門である。本社は、60余年ビルメンテナンス業に加え、障がい者などの就職困難者に雇用を通じた自立支援活動を行っており、11年前に長年培った快適な住環境づくりと理念である「モノを大切に、人を思いやる心」を持って事業所を開設した。事業所は、鉄骨造りの2・3階に2ユニットを配し、快適な住環境づくりを活かした広い居室や清掃専門業者による清掃のほか、常勤の准看護師や3名の調理専門職員を配置するなどの特色があり、本社の「人を大切に」を持って本社、事業所管理者や全職員が利用者18名の介護の実践に当たっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域で深める優しさの絆 食事が育む健康な暮らし」を事業所理念とし、管理者及び職員全員が共有し実践につなげている。	事業所理念のキーワードが「地域」と「食事」の2つで、地域との数多くの交流や3名の調理専門職員を配していることからその実践ぶりが窺える。なお、理念は各フロアー(ユニット)に掲示され、フロアー会議での確認とあわせ職員への周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元小学校との交流。年賀状での交流や毎年3月には近くの公園でパンジーをプレゼントをして頂いており、受け取りの時には歌のプレゼントもして頂いている。 月1回折り紙教室のボランティアに来て頂いている。	近隣の民生委員が所有する畑では、毎年春の菜の花や秋のコスモスが育てられ、解禁日以降は利用者も訪れ、地域との交流が行われている。散歩に出かける公園でも保育園の園児との交流が生まれている。コロナ禍の現在は、交流が中断しているが、コロナ収束の折には従来の交流が再開されるのを事業所、利用者や家族等も楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の自治会長や民生委員の方へ報告している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を実施し、入居者との外出状況や行事への取り組みの報告をしている。地域の状況を地域の方々にお聞きしている。	事業所に集合する会議は、コロナ禍で昨年3月以降中止となっている。代わりに市とも相談のうえ事業所から2ヶ月毎に必要な事項を報告書にまとめ、従来の出席者や利用者家族等に配付(郵送)している。従来は、自治会長、民生委員、児童委員、地域包括支援センター職員、利用者家族代表、本社介護事業部担当及び事業所管理者が出席していた。	報告書に、従来の出席者からの情報、意見や評価などを追加記載した議事録を作成のうえ、保存と公表(掲示や配付など)する事を望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険事業者連絡会のグループホーム部会に定期的に参加し他事業所と市担当者と密にしている。 生活保護の利用者の関係で市の生活保護の担当の方と連携をとっている。	市の高齢福祉室とは必要に応じほうれんそう(報告・連絡・相談)を行っている。利用者は生活保護者が半数以上占めることから、各種手続き等で生活福祉室との連携やケースワーカーの来所が随時ある。市の介護保険事業所連絡会に所属し、各種情報の入手に努めている。地域包括支援センターとは運営推進会議等で連携を保っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	市の指導の下、「高齢者虐待防止関連法」についてユニット毎にマニュアルを作成し、虐待と思われる事例を発見した際の通報先を掲示し啓発に努めている。	「身体拘束等の適正化のための指針」を作成し、適正化委員会と職員研修を規定回数通りを行い、記録を保管している。研修では、スピーチロック(言葉の拘束)をテーマに利用者への声掛けや待ってもらう時にはその理由を伝えるなどの配慮をしている。ユニット入り口は安全のため施錠している。拘束は数年前に車椅子にからむ事例があったが、現在は無い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止の研修を行い職員に周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	管理者が権利擁護に関する制度を周知しており、その重要性を認識しているが、職員に対する研修を行うには至っていない。成年後見を利用している入居者がいる為、職員からの質問や疑問に対してはその都度説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし、疑問点などないか尋ねるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	問い合わせ等ある場合にはその都度説明し、家族からの意見、要望をお聞きしている。それらの意見は運営主体へ報告している。	従来は、家族等の面会時に意見や要望を聞いていたが、コロナ禍の現在は電話連絡の際に伺っている。利用者の要望等は、日常の介護の中で聞くことが多いが、お風呂などでリラックスした時に本音が出る事もある。意見や要望は連絡ノートや会議において職員間で共有している。家族等の要望で、利用者の通院の利便性対応を見直した事例がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者から職員に声をかけ、意見や提案を聞くように常に心掛けし、意見等を言い易い環境づくりに努めている。また管理者会議で職員からの意見の報告を行っている。	管理者は介護の現場にも入っており、職員とコミュニケーションの機会は多く良好である。また、会議で職員の意見や要望を聞いており、これまでフロアーの死角にミラーを取り付けたり、書類の重複記載を避ける工夫など作業の効率化を図った例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のシフト希望を優先し、雇用契約の変更の申し出を可能な限り受けるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修の受講。研修で学んだ内容を職員へ伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特定施設部会への参加をし、意見交換などからサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や面談の段階で、利用者、利用者家族からの聞き取りとをしっかりと行い、ケアマネジャーなどのサービス利用担当者から意見聞く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも話を伺うことを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を聞き、職員とも話し合いながら支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に声掛けを行い、少しずつ一緒に行うことを増やしていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子や何か変化があれば面会時や急ぎの時は電話で状況を伝え支えていくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の訪問を受け入れている。	コロナ禍の現在、面会は原則中止しており、家族等からは多少心配の気持ちもあるが、事業者からの適宜の電話で利用者の健康状態の連絡を受け安心してことが窺える。なかには、突然事業所を訪ねてこられる家族等もおられ、事業者では1階の玄関先において短時間の面会を行う事になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無理強いをしない程度でレクリエーション等に誘い良好な人間関係を築けるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば応じ、退去後の近況を尋ねたり、また入居していた時の写真をお送りいたしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向をを聞く事に努めている。本人から意向の聞き取りが出来ない時はご家族に自宅で暮らしていた時の様子や趣味や好みなど聞き、本人の意向に沿えるように検討している。	入居前に、管理者と計画作成担当者が本人の思いや意向の把握、家族等の希望など聴取しアセスメント表を作成する。入居後は、職員が寄り添いより深く本人がどう暮らしたいかなどを把握し連絡ノート等で全職員と共有している。利用者が常に同じ服を着ているのを見かね、利用者とショップで購入したお好みの3着を毎朝交互に着替えている例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、事業所等より話を伺い環境を整えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の会話や様子から、何がしたいのか、何が出来るのか、引き出せるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望を伺うようにしている。家族、職員より現状の様子を話し合い反映するようにしている。	介護計画は、家族、職員のほか主治医や常勤准看護師等の意見を反映させ、計画作成担当が中心となり作成している。サービス担当者会議、カンファレンスやモニタリングは概ね3ヶ月毎に行い、必要に応じ計画の見直しを行っている。計画は電話で家族等に丁寧に説明のうえ、郵送した同意書を返送してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は職員が記録を行い、各階リーダーがケアマネ、管理者に相談し、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの受け入れなどで対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所の方と散歩時に挨拶や会話を交わすことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に主治医に通院するか、ホームの往診を利用するか選ぶことができるようにしている。	1名の家族対応受診者以外は、協力医による月2回の訪問診療を、希望者が週1回歯科医の訪問診療を受けている。他の専科は家族対応としているが、柔軟に対応している。常勤の准看護師が日常の健康管理に当たり、必要に応じて訪問看護師の援助を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に変化などがある時は、すぐに看護師、ケアマネ、管理者へ報告するようにしている。受診が必要な時はかかりつけ医の指示を仰ぐように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、職員全員で協力し病院での状況を確認し病院との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約前に説明をし、納得頂いている。重度化した時は、ホームが主体となりご家族とかかりつけ医とで話し合いを行い、ご家族が納得できるよう支援している。	入居時の指針により説明し受諾を得ており、状態変化に応じて家族・かかりつけ医・事業所と話し合い、入院か事業所での看取りかの家族の希望に沿って対応している。近年では看取り経験を有していない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、緊急時に必要な書類はすぐに取り出せるようにし、職員に周知させている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行っている。事務所に避難場所の地図を掲示している。	コロナ禍で消防署立ち合いはなく、規定の訓練は行われているが、非常勤職全員が参加する体制ではない。火災・地震・風水害への対策マニュアルは、2～3年毎に見直している。地域協力については、コロナ禍で運営推進会議が中止となり話し合いの機会がなく、昨年引き続いての課題としている。	近時のハザードマップや避難情報の周知も含め、各種災害対策に沿った複数回の自主訓練と、避難後のインフラ停止想定での生活・ケアの体験についての検討を期待する。地域協力体制づくりへの努力にも期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努力はしているが、まだ出来ていない職員がいるので、定期的に勉強会を行っていききたい。	人格の尊重とプライバシー保護については、日常の様々な接遇時での言動に注意するよう努めている。永年勤続の職員の中には、親しさが慣れになり、言葉使いなどで礼を失する場合もあり、管理者が個人的に注意するほか、職員会議での話題に、研修会実施で是正していくとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを行い希望を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別に話しかけて聞くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に添うようにし要望に応えられるように支援している。 自身で出来ない方は職員が整容をお手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じ、食事前後のテーブル拭きや片付けをして頂いている。	調理専門員3名が、昼食・夕食の献立・食材調達・調理を交代で行っている。テーブルと椅子の高さの調整、車椅子から椅子への移譲など食べる姿勢にも配慮している。敬老の日のおやつにお汁粉は、利用者の笑顔があふれていた。年に1回の外食の楽しみは、コロナ収束迄お預けである。	理念の「食事が育む健康な暮らし」を一層高める意味で、利用者・調理専門員・職員・管理者などによる献立について、栄養管理士の助言を得る機会について検討することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が利用者の様子を見て記録をし、栄養のバランスを考えながら本人の好むものを提供できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科による指導の下、適切なケアを個別で支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録や本人の様子を見ながら出来るだけトイレでの排泄を支援している。	夫々の機能に応じてトイレで排泄、を目標に声掛けや誘導の工夫・排泄用品の適正な使用と適切な交換で、自立に向けた支援に努めている。退院時のおむつ状態を、紙パンツにパットの状態まで改善した事例は、職員の励みにもなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にヨーグルトを提供したり、十分な水分摂取や個別に飲み物を工夫している。 体操など体を動かすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意向を聞いて行っている。	身体全体の観察を怠らないように、週2～3回午前中に2～3名、夫々に湯を入れ替えて入浴支援を行っている。シャワー浴だけが2名だが、何れも1対1での歌やオシャベリのゆったりタイムを楽しんでいる。希望により同性介助に応じており、極端な入浴拒否はないようである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間が決まっているが、個別のタイミングで休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診医や薬剤師から薬の説明をもらい、文書にて薬剤情報を提供して頂き、日々の変化は職員が確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に好みなどの情報収集をし、その人の好みや趣味を把握し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常は出来るだけ散歩で戸外へ出て、施設のイベントで地域のスーパーや公園などに外出している。	コロナ禍で従来の外出は出来ていないが、緊急宣言中を除き、近くの散歩や玄関先での日光浴を週に1~2回は行うようにしている。コロナが収束したら、公園での紅葉狩りや畑のコスモ鑑賞、それぞれに買い物をと期待している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がありその力があれば所持して頂いている。 訪問美容の時の支払いを所持金から支払う支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援しており、また声掛けも行う本人の意向を確認している。 携帯電話を所持されている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月フロアの壁に季節感のわかる絵などを貼り、季節の童謡を共有フロアに流し、また唄ったりし工夫している。	月1回の清掃専門員による清掃と、職員による日々の清掃で、明るく清潔感が保たれている。壁面に季節の塗り絵や行事の写真を飾り、感染防止にテーブルにアクリル板を設置しながらも、食堂兼居間の心地よい雰囲気が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルと共有のソファを少し話して設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で生活していた使い慣れたタンスなどを持ち込んで頂いたりし工夫している。	既設のベッドとクローゼットに、使い良さと危険性に配慮された調度品に、思い出の小物や趣味の品々、写真・仏壇などがその人の往年を忍ばせ、落ち着いた暮らしの場となっている。月1回の専門職の清掃と、職員の気遣いある清掃で、気持ちよく明るい居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	絵や文字などの貼り紙をし、理解できるようにしている。		